



後京極摂政前太政大臣



## Contents

はじめに	3
概要	4
研究概要	6
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画	7
事業概要	16
国際交流	23
大学院教育	25
公開データベース	26
教員一覧	27
参考データ	29
人間文化研究機構	30

# はじめに

国文学研究資料館

館長 ロバート キャンベル

年度が替わり、春から忙しい。

国文研では昨年からの準備を進めているいくつかのプロジェクトが本格的に稼働すると同時に、新規事業に着手することも計画しています。立川でいよいよ活潑に、新しい年度の充実したスタートを切ることができました。

戸越時代から半世紀近く地道につみ上げてきた調査収集と日本古典籍総合目録データベース構築などの基幹事業の成果をふまえ、全館体制で取り組んできた大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の核心ともいえるべき画像データベースを公開しました。昨年10月のことで、以来、当館の電子資料館へのアクセス数が格段に増え、当該「新日本古典籍総合データベース」の周知も順調に進んでいる模様です。総合データベースの存在が知られるにつれて、国内外にある複数の古典籍保有機関から学術協力や画像データの提携などに関する問い合わせが届いています。新しいデータベースの拡張と、それを基盤とする新たな研究の創成がいっそう重要な意義を持つようになるでしょう。

今年は10年間に及ぶフロンティア促進事業の中間点にあたり、科学技術・学術審議会による中間評価を経て、いよいよ後半戦に入っていくことになります。

画像データ作成と画像へのタグ付けに対してソーシャルタギングなど新たな手法を導入するとともに、国立情報学研究所等と協働して行っているこれまでにない検索技術の開発を推進し、新しいデータベースのコンテンツの充実とその機能の向上に取組みます。

文学をはじめ、古典籍を扱う領域にかかわる諸学会との学術協定締結を増やしながら実体化させ、そのことで研究者コミュニティとの連携を強化し、大学共同利用機関としてのミッションをいっそう鮮明に位置づけるようにします。国文研は、日本文学研究の推進というコア事業を持ちながら、そのマテリアルである書物を広く他分野の研究者と、関心を寄せる世界中の人々に開放し、新たな知見の開発と文化的価値の創発に寄与することが求められています。

この観点から、次の3領域における活動を強化したいと考えています。

ひとつは、異分野融合研究と、いわゆる異業種団体との協力体制です。昨年度の歴史的オーロラに関する国立極地研究所との共同研究成果の世界に向けた発信や、江戸料理本の画像公開とレシピウェブサイトへの搭載（公益財団法人味の素の文化センターおよびクックパッド株式会社）などは良い先例になったと言えます。

もうひとつは、われわれとともにフロンティア促進事業を推進している各地の大学と自治体、各種法人などをプレイヤーとした地域との協働体制です。国文研が進めるネットワーク構築計画は、資料公開と研究者によるネットワーク構築が核心にあることは言うまでもありませんが、一方、その公開と活用が個々の大学の教育・研究とそれぞれの地域の生活文化の活性化に大きく寄与し得ることは論を俟ちません。地域との連携をいっそう強めることが求められる所以です。

3つ目の領域は、グローバルなネットワーク作りの加速化です。現在進めている国際共同研究の遂行とともに、その成果を持続的に問うことのできる英語によるオープンソース・ジャーナルを発信したい。個々のプロジェクトを超えて日本の人文科学そのものを世界と共有する大きなきっかけになると考えます。

これらに加え、研究者コミュニティの先に広がる社会にもアウトリーチすべく、いくつかの事業に着手・推進させていきます。今年度から、人間文化研究機構が率いる研究資源の可視化高度化プログラムに加わることによって、古典籍の展示方法などをめぐる先端的な研究が可能となります。秋に開催予定の特別展「〈いのり〉と〈すくい〉の中世」では成果の一端を披露することになります。また昨年度に続き、文化庁との共同事業である「ないじえる芸術共創ラボ」を拡充させながら、各アーティストと翻訳家が手がける作品制作に関する公開ワークショップや成果発表などを行って行きます。詳細は、春に全面改修したばかりの新規ウェブサイトにて随時公開していきますので、折々に覗いてみてください。



©川本聖哉

# 概要

## 国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来40年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組めます。

## 沿革

- 昭和41〈1966〉年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター（仮称）」の設置を政府に勧告
- 昭和45〈1970〉年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター（仮称）」の緊急設置を文部大臣に報告
- 昭和46〈1971〉年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 昭和47〈1972〉年 5月 国文学研究資料館創設（管理部、文献資料部、研究情報部）  
文部省史料館（昭和26年設置）が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 昭和52〈1977〉年 6月 開館式挙行
- 〃 7月 閲覧サービス開始
- 昭和54〈1979〉年 4月 整理閲覧部設置
- 昭和62〈1987〉年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 平成4〈1992〉年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 平成14〈2002〉年11月 創立30周年記念式典挙行
- 平成15〈2003〉年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 平成16〈2004〉年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる  
法人化に伴い、館内組織を改組
- 平成20〈2008〉年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 平成25〈2013〉年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 平成26〈2014〉年 4月 古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組

## 施設について

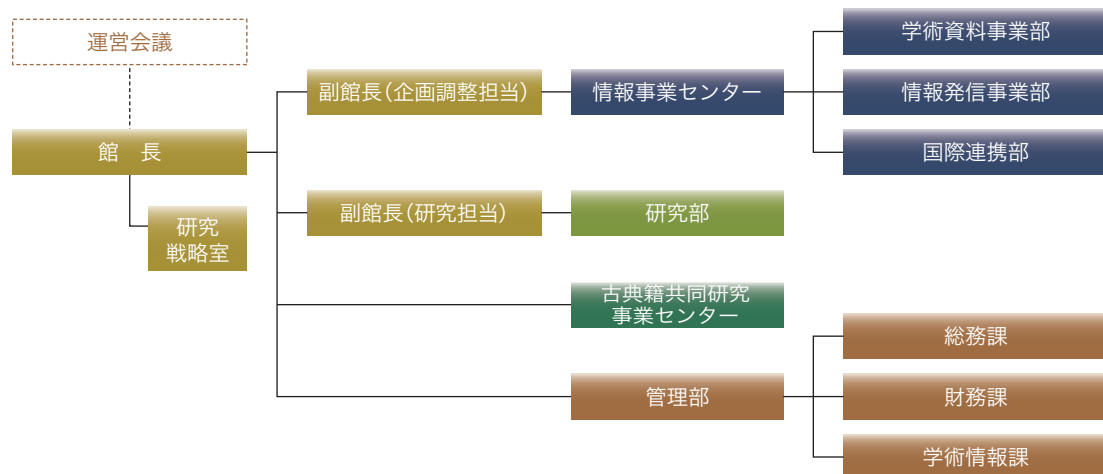
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、平成元年8月及び平成5年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、平成20年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書をすべて開架にしておき、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



## 組織図



## 運営会議

### 館外委員

青柳 正規	山梨県立美術館長
安達 淳	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
飯倉 洋一	大阪大学大学院文学研究科教授
上野 健爾	四日市大学関孝和数学研究所長
江川 雅子	一橋大学商学研究科教授
金 文京	鶴見大学文学部教授
木村 茂光	帝京大学文学部史学科教授
小長谷有紀	国立民族学博物館教授
鈴木 俊幸	中央大学文学部教授
高岸 輝	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
谷 知子	フェリス女学院大学教授
十重田裕一	早稲田大学文学学術院教授

### 館内委員

入口 敦志	研究部教授
大友 一雄	研究部教授(研究主幹)
落合 博志	研究部教授
神作 研一	研究部教授(研究主幹)
小林 健二	副館長(企画調整担当)
齋藤真麻理	研究部教授(研究主幹)
谷川 恵一	副館長(研究担当)
山下 則子	研究部教授
渡辺 浩一	研究部教授

## 役職員

館長	ロバート キャンベル
副館長(企画調整担当)	小林 健二
副館長(研究担当)	谷川 恵一

### 研究部

研究主幹	大友 一雄
研究主幹	神作 研一
研究主幹	齋藤真麻理

### 情報事業センター

情報事業センター長(併任)	小林 健二
学術資料事業部長(併任)	神作 研一
情報発信事業部長(併任)	大友 一雄
国際連携部長(併任)	齋藤真麻理

### 総合研究大学院大学文化科学研究科

文化科学研究科長	山下 則子
日本文学研究専攻長	落合 博志

### 古典籍共同研究事業センター

センター長(併任)	谷川 恵一
副センター長(併任)	山本 和明
事務室長	河野 浩

### 管理部

管理部長	山口 茂
総務課長	濱 由樹
財務課長	窪川 友行
学術情報課長	土井 昭人



# 研究概要

日本文学及びその関連領域の資料を学術基盤として整備するとともに、人文学の一環としての日本文学研究の一層の推進を目的として、外部の研究者が参加する共同研究委員会を設置して、以下の共同研究を行っています。

## ■ 基幹研究

研究の基盤となる日本文学及びその関連資料に関する基礎研究を進展させる基幹研究を3課題実施しています。

### ● 鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究 (平成28年度～30年度)

研究代表者：小林 健二 国文学研究資料館・教授

国文学研究資料館に寄贈された『伊勢物語』のコレクションとして名高い鉄心斎文庫の多種多様な資料を総合的に調査研究して、研究資源として利活用できる基盤を整備するとともに、資料研究の内容を報告書などで公開することにより、『伊勢物語』研究の活性化をはかる。

### ● アーカイブズと地域持続に関する研究 (平成28年度～30年度)

研究代表者：渡辺 浩一 国文学研究資料館・教授

本研究は、東日本大震災による被災地域の再開発や人口減少に伴う地方消滅といった震災後に訪れた急激な地域社会の変動に対して、アーカイブズを通して地域持続の問題を考えようとするものである。研究は、公文書に関しては行政機関による制度設計のあり方、民間資料に関してはボランティア活動による普及活動のあり方、以上の二つのテーマにより行われている。

### ● 日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究 (平成27年度～35年度)

研究代表者：相田 満 国文学研究資料館・准教授

本研究は、当館が公開している新日本古典籍総合データベースの検索機能の向上のために、文学及び歴史分野の古典籍を対象とし、それぞれの古典籍の形式や内容に適したタグ付けの手法を具体的な実践を通して開発しようとするものである。幅広い研究者が参加するタグ付けの実施に向けた基礎研究であり、本研究の成果はデータベースに組み込まれる。

## ■ 特定研究

日本文学研究を推進させる課題に取り組む特定研究を2課題実施しています。すべての課題は公募によるものです。

## 公募(一般)

当館の所蔵資料(原本資料・マイクロフィルム資料等)を活用した日本文学及び関連諸分野を含む創造的で幅広い研究。若手研究者の参加を奨励しています。

### ● 軍記および関連作品の歴史資料としての活用のための基盤的・学際的研究 (平成30年度～32年度)

研究代表者：井上 泰至 防衛大学校・教授(国文学研究資料館・客員研究員)

近世軍記の中には、事実の解明、および歴史的事件のイメージ形成の解明に役立つ資料が多い。秀吉関係の軍記とその周辺資料の悉皆調査を行うことで、その資料の価値について明らかにし、信長や関ヶ原・大坂の陣など周辺の資料とも適宜比較しながら、近世軍記の歴史資料としての有効性の検討方法についてモデルを提示することを目的とする。

## 公募(若手)

若手研究者による明確な目標と適切な研究計画を有する、日本文学に関する創造的研究。

### ● 幕末地方歌壇の研究 ―佐賀藩の場合― (平成29年度～30年度)

研究代表者：三ツ松 誠 佐賀大学・講師(国文学研究資料館・客員研究員)

現在の学界で、近世後期の佐賀藩(とその支藩)で和歌が盛んだったとする認識は薄い。だが古い研究が示すように、幕末には藩主周辺の和歌結社小車社や藩校和学寮を拠点にした和歌文化が広がっていた。そこで本共同研究では、幕末佐賀歌壇の活動実態を明らかにして、その特質を全国的な動向の中に定位することを目指す。

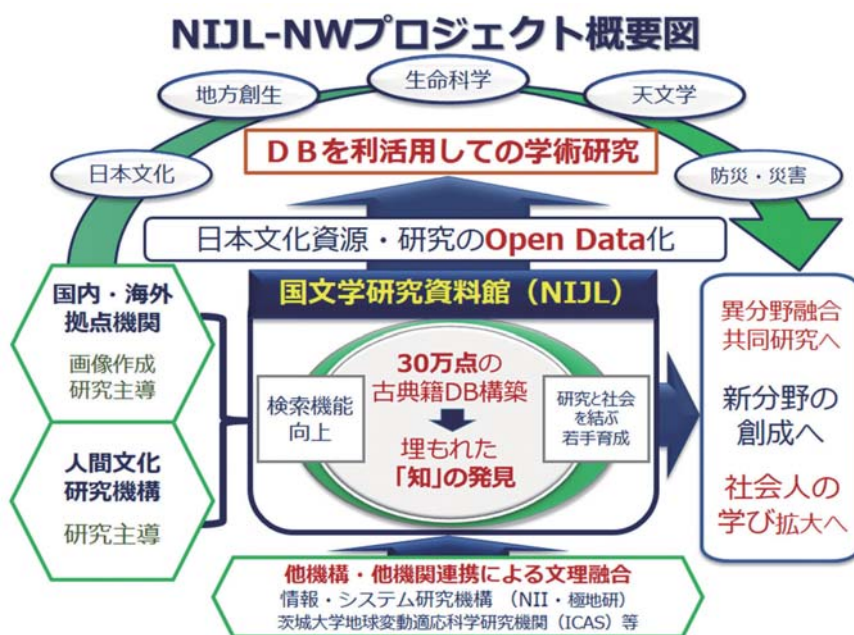
# 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

(略称：歴史的典籍NW事業／NIJL-NW project)

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。



## 実施計画

2014年度（平成26年度）から2023年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。

古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

### ①日本語の歴史的典籍DBの構築

- ◆30万点の画像データの作成
- ◆新日本古典籍総合データベースの運用
- ◆検索機能の向上・多言語対応

### ②国際共同研究の推進

- ◆異分野融合研究の醸成
- ◆「総合書物学」の推進・構築

### ③国際共同研究ネットワークの構築

- ◆連携機関との共同研究体制構築
- ◆先導的な共同研究モデルの構築

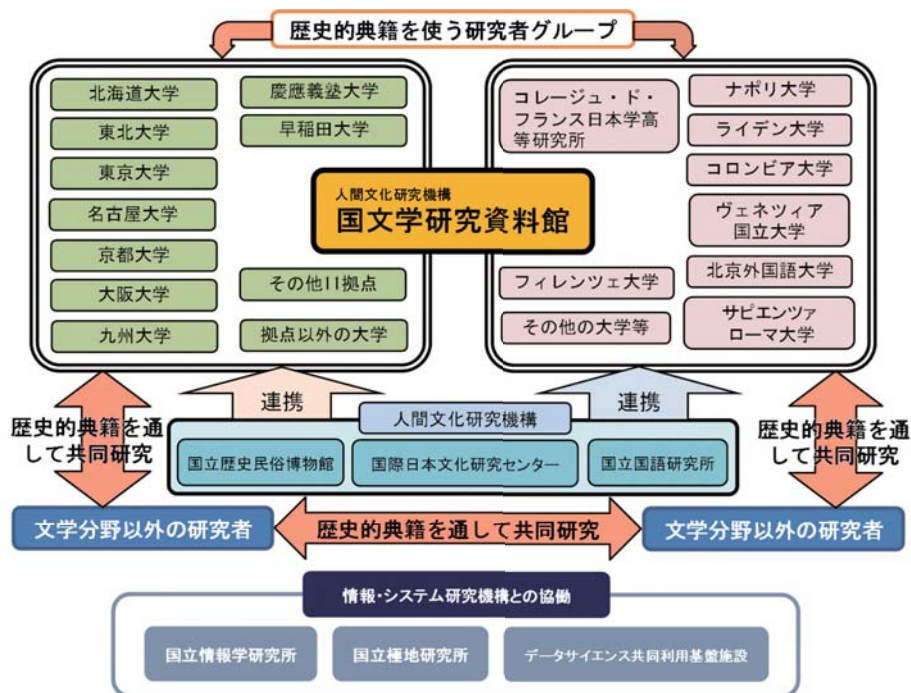


医学・理学に加え、産業・武術・宗教分野を中心とした画像作成を、当館、拠点大学及び研究機関等において実施。引き続き専門性の高い分野別収集を推進します。翌年度4月以降、順次画像公開予定です。

## 実施体制

2014年（平成26年）4月に、当館に本事業を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、並びに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見をふまえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館の全ての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。



国際共同研究ネットワークのイメージ

## 平成29年度の画像情報作成状況

### ● 拠点大学：デジタル撮影

東北大学（医学・理学）、筑波大学（医学・理学）、東京大学（医学・芸術）、名古屋大学（思想・文学）、京都大学（医学）、大阪大学（宗教・歴史・医学）、神戸大学（医学・地理等）、広島大学（文学・思想・言語）、慶應義塾大学（医学・文学）、関西大学（文学・歴史）

### ● 医学・理学・産業分野を中心とした専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

中津市歴史民俗資料館分館村上医家史料館・大江医家史料館（医学）、国立天文台（理学）、弘前市立図書館（理学・産業・地誌等）、東京海洋大学附属図書館（産業）、東京書籍附設教科書図書館東書文庫（教育）、宮内庁書陵部（歴史）、東京藝術大学附属図書館（芸術）、専修大学向井文庫（文学）、茨城大学図書館（歴史）、実践女子大学図書館（文学）、中野三敏氏（文学・思想・学術）、いけのや文庫（文学）、国文学研究資料館（文学・歴史）

### ● 画像情報の内製化実証試験

研医会図書館（医学）、東京書籍附設教科書図書館東書文庫（教育）、東京藝術大学附属図書館（芸術）、中野三敏氏（文学）、佐藤悟氏（文学）、闘雞神社（文学）、大谷大学図書館（宗教）、関西大学図書館（文学）、国文学研究資料館（文学）

### ● マイクロフィルムからの画像作成

宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム（文学・歴史等）、当館所蔵マイクロフィルム（文学）

### ● 既存画像の提供

小泉吉永氏〈往来物倶楽部〉（教育）、東京藝術大学附属図書館（芸術）



# 新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-modern Japanese Works)」が平成29年4月からの試験公開を経て、同年10月27日に正式公開されました。

文学分野のみならず医学・理学分野等の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、現在約8万点の画像をみることができます。国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。



公開サイト <https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

## 新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

### Point1 探しやすい

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！

▲検索トップページ

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

### Point2 引用しやすい

電子データに付与される国際的識別子、DOI(デジタルオブジェクト識別子)の採用により、永続的なアクセスを保証。  
論文などに引用したいときに便利！

**DOI**  
<https://doi.org/10.20730/200021913>

変換

**新日本古典籍総合データベース**  
<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913>

データベースのURLが代わってもDOIは変わらず、リンク切れが発生しない

<https://www.doi.org/>

### Point3 活用しやすい

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF (International Image Interoperability Framework: トリプルアイエフ)を採用。  
異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！

▲画像ビューア

<http://iiif.io/>



利用にあたっては、パンフレットをご参照下さい。  
「新日本古典籍総合データベース パンフレット (クイックガイド付)」  
<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>  
からダウンロードできます。

## 新日本古典籍総合データベースで公開中の画像例



奈良絵本・大職冠

[ならえほん・たいしょかん・成立年未詳]

室町時代後半～江戸時代前期につくられた絵入りの「奈良絵本」のひとつ。金泥、銀泥、朱などが使われた極彩色で、藤原鎌足の物語が描かれている。

● DOI : <https://doi.org/10.20730/200016463>

# オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下「CODH」）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。

いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス (CC BY-SA)」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト [http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data\\_set\\_list.html](http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html)

## ●日本古典籍データセット

【点 数】 1,767点

『源氏物語』『伊勢物語』など国文学分野のほか、当館で収集した、医学や理学、産業など多分野の古典籍を含んでいます。

【構 成】 ①古典籍画像データ  
②書誌データ  
③本文テキストデータ  
④タグデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>



伊勢物語絵巻の一コマ（国文研 鉄心斎文庫）

DOI : <https://doi.org/10.20730/200024363>

## ●日本古典籍字形データセット

【データ数】 3,999文字種 403,242字

※平成30年3月現在

以下15点の資料から字形データを採取しています。

「好色一代男」「おらが春」「雨月物語」「当世料理」「養蚕秘録」「万宝料理秘宝箱」「膳部料理抄」「料理物語」「かてもの」「日用惣菜俎不時珍客即席庖丁」「料理方心得之事」「新編異国料理」「料理秘伝抄」「物類称呼（国語研究所蔵資料）」「比翼連理花迺志満台（国語研究所蔵資料）」

【構 成】 ①原本補正画像データ  
②文字座標データ  
③文字画像データ  
④作業報告書

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>



## ●江戸料理レシピデータセット

【点 数】 107種類

40種類は現代語訳データ有り、更にそのうち15種類は現代レシピデータがあります。

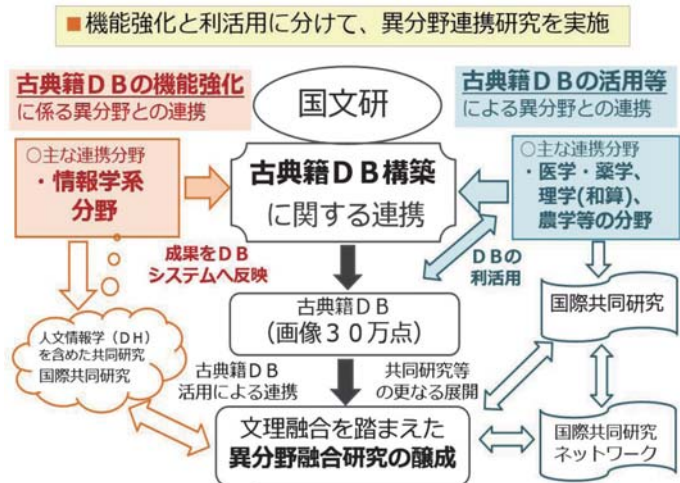
【構 成】 ①原本画像データ  
②翻刻テキストデータ  
③現代語訳データ  
④現代レシピデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>  
CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」での公開も実施しています。



# 共同研究

本事業においては、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目標としています。この目標に向け、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学と共同して取り組むとともに、先進的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促しています。



## 国際共同研究

海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する共同研究です。

### ●UCバークレー所蔵古典籍資料のインスレーションとキュレーション

(2018年度〈平成30年度〉～2020年度)

研究代表者：ジョナサン ズイッカー カリフォルニア大学バークレー校東アジア言語文化学部・准教授

### ●中近世日本における知の交通の総合的研究

(2018年度〈平成30年度〉～2020年度)

研究代表者：ダヴァン ディディエ 国文学研究資料館研究部・准教授

### ●古典芸能における身体—ことばと絵画から立ち上がるもの—

(2018年度〈平成30年度〉～2020年度)

研究代表者：ボナヴェントゥーラ ルペルティ

ヴェネツィア カ・フォスカリ大学アジア・地中海アフリカ研究学科日本学研究科・教授

## 異分野融合共同研究

【文献観光資源学】 総括：谷川 恵一 国文学研究資料館研究部・教授

### ●津軽デジタル風土記の構築

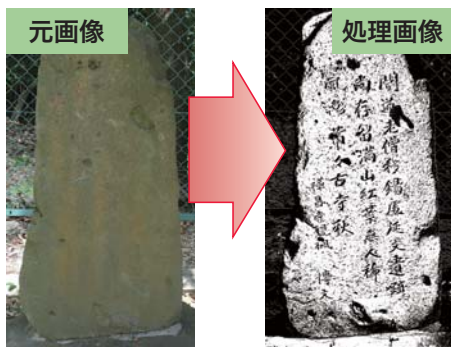
(2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：瀧本 壽史 弘前大学教育学部・教授

### ●碑文のデジタル復元に関する手法研究と実践

(2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：上相 英之 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・客員研究員



#### 《研究内容》

- ①斜光撮影で影を強調した画像を、複数の角度から撮影
- ②画像登録
- ③画像と同時に、検索で使用する材質や石碑の形状、風化の度合、位置情報なども登録
- ④登録された情報から、各石碑に合った画像処理手順を検索、呼び出し
- ⑤画像処理手順をもとに、画像処理ソフトウェアを実行
- ⑥処理後の画像を Web ブラウザに表示

### ●GISを用いた総合地域情報に関する国際発信方法に関する研究

(2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：山本 和明 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・特任教授



【典籍防災学】 総括：山本 和明 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・特任教授

●典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備 (2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：片岡 龍峰 国立極地研究所・准教授

●歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成 (2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：田村 誠 茨城大学地球変動適応科学研究機関・准教授

【和食と伝統医学の研究】 総括：小林 健二 国文学研究資料館研究部・教授

●料理・調味料の復元と活用に関する研究 (2016年度〈平成28年度〉～2019年度)

研究代表者：神松 幸弘 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構・助教

●錦絵等に対するアノテーション付与の研究 (2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：小林 顕彦 味の素食文化センター食文化ライブラリー・館長

山本 和明 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・特任教授

## 《研究風景》



天文・気候情報



減災・気候変動適応



調味料復元

## 国文研主導共同研究

「総合書物学」の構築を目指す共同研究2件を科学研究費等の外部資金を活用し実施しています。

●書誌学・文献学の再構築 (2015年度〈平成27年度〉～2019年度)

研究代表者：谷川 恵一 国文学研究資料館研究部・教授

●日本古典籍の比較書誌学的研究 (2017年度〈平成29年度〉～2019年度)

研究代表者：落合 博志 国文学研究資料館研究部・教授

## 機構内連携共同研究

異分野融合の観点から「総合書物学」の構築を目指す共同研究を、人間文化研究機構の国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携し「広領域連携型基幹研究プロジェクト」として、当館が主導機関となり実施しています。

●異分野融合による「総合書物学」の構築 (2016年度〈平成28年度〉～2021年度)

統括代表者：谷川 恵一 国文学研究資料館・教授

各研究ユニット

・古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究

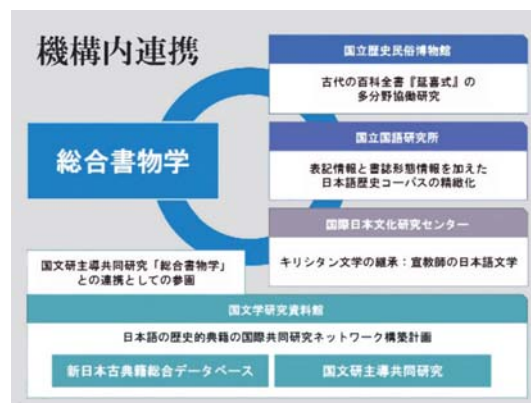
研究代表者：小倉 慈司 国立歴史民俗博物館・准教授

・表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化

研究代表者：高田 智和 国立国語研究所・准教授

・キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学

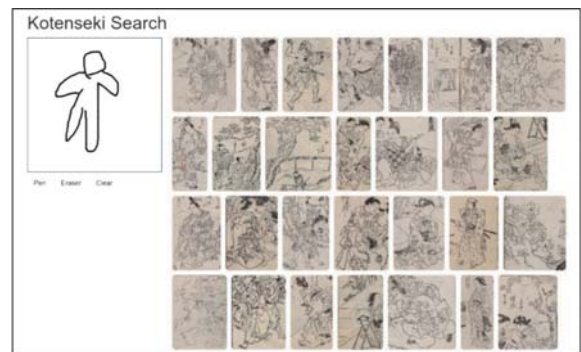
研究代表者：井上 章一 国際日本文化研究センター・教授



## 研究開発系共同研究

検索機能の高度化等を推進するため、研究開発系共同研究8件を実施しています。

- ・キーワード抽出に関わる総合的研究（公立はこだて未来大学）
- ・多言語対応に関するシステム導入試験（立命館大学）
- ・検索機能の高度化としての挿絵の抽出（国立情報学研究所）
- ・「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」における典籍の全文テキスト化に関する検討協力（凸版印刷株式会社）
- ・古文書および古典籍を対象とした、ブックスキャナの開発に関する共同研究（株式会社PFU）
- ・テキスト共同作成ツールの開発
- ・多元光情報の高次元化処理による古典籍情報解析に関する基礎的研究（奈良先端科学技術大学院大学等）
- ・TEI（Text Encoding Initiative）の導入（人文情報学研究所、東京大学等）



国立情報学研究所との共同研究の成果としてウェブサイト上で絵検索のデモを公開中

[http://lab.nijl.ac.jp/sketch\\_search/doc/](http://lab.nijl.ac.jp/sketch_search/doc/)

## 研究成果の発信及び広報活動状況

共同研究の成果や本事業の活動状況について、広く社会の理解を得るため、プレスリリースや、国際研究集会のライブ配信、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

当館及び共同研究先の機関と連携した研究成果等のプレスリリースを積極的に展開しています。

### 『平成29年度に行ったプレスリリース』

- 平成29年 5月16日（火） 味の素の文化センター所蔵の「江戸の料理書」公開（公益財団法人味の素の文化センター）
- 平成29年 5月24日（水） 茨城大学ICASとの協定締結（茨城大学）
- 平成29年 6月 7日（水） 可搬型ブックスキャナによる電子化実証実験（株式会社PFU）
- 平成29年 9月13日（水） 三越伊勢丹とのコラボレーション企画（江戸料理の再現）
- 平成29年 9月20日（水） 史上最大の磁気嵐を明らかに（国立極地研究所、総合研究大学院大学）【論文発表】
- 平成29年10月27日（金） 「新日本古典籍総合データベース」の正式公開（同日、当館大会議室にて記者会見開催）
- 平成29年12月26日（火） 「八王子隕石」の詳細分析（国立極地研究所、国立科学博物館、九州大学、総合研究大学院大学）
- 平成30年 1月17日（水） 「古典」オーロラハンター3の開催（国立極地研究所、総合研究大学院大学）
- 平成30年 1月25日（木） ICAS共同研究シンポジウムの開催（茨城大学）

国立極地研究所との異分野融合共同研究の研究成果の一つとして、江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかになった史上最大の磁気嵐について、共同でプレスリリースを行いました。（平成29年9月20日（水）リリース）

この成果は、アメリカ地球物理学連合の学術誌『Space Weather』に掲載され、国立極地研究所の広報誌『極』でも大きく取り上げられました。



Space Weatherに掲載された論文



国立極地研究所発行 広報誌「極」2018年冬号 No.17



- 日本古典籍のポータルサイトとして「新日本古典籍総合データベース」を平成29年10月27日（金）から正式公開しました。同日当館大会議室において記者会見を開催し、データベースの意義や機能について説明を行いました。また、国立情報学研究所のCiNii Booksに新日本古典籍総合データベースと連携する新機能が追加され、当館及び国立情報学研究所双方で関連プレスリリースを行いました。

（平成29年10月27日（金）リリース）

- 株式会社 三越伊勢丹が行う江戸料理の再現、アレンジのキャンペーン（開催期間：平成29年9月20日（水）～10月3日（火））に協力し、各店舗の商品に関して、江戸時代の料理本から該当箇所を抽出し、その内容の活字翻刻と、現代文への翻訳、解説文の記載などを行いました。関連してセミナーの実施や、当館所蔵の古典籍も展示しました。

（平成29年9月13日（水）リリース）



当館大会議室での記者会見



日本橋三越本店の食品販売フロアで古典籍の展示

## 当館主催のシンポジウム等（海外でのイベント開催）

- 第3回「日本語の歴史的典籍国際研究集会」を開催しました（平成29（2017）年7月29日（金）～30日（土） 当館主催）。各パネルの発表要旨をウェブサイトに掲載し（和文・英文）、当日の様子はインターネット上でライブ配信を実施しました。



第3回日本語の歴史的典籍国際研究集会

- 2017年EAJSリスボン大会（EAJS2017 Conference in Lisbon Lisbon, 30 Aug-2 Sep）に併せ、「日本語の歴史的典籍研究の近未来（“The near Future of Pre-Modern Japanese Text Research”）」と題したプレイベントを当館主催で現地にて開催しました。

（平成29（2017）年8月30日（水））



日本語の歴史的典籍研究の近未来



## その他の活動状況

- ニコニコ超会議2017「超みんなで翻刻してみた」のブース（平成29年4月30日（日）於幕張メッセ）山本副センター長がワークショップに参加しました。



ニコニコ超会議2017

- 第28回日本資料専門家欧州協会年次大会（2017 EAJRS Conference in Oslo）（平成29〈2017〉年9月13日（水）～16日（土）ノルウェー オスロ）において、「新日本古典籍総合データベース」及びオープンデータセットの紹介等を含む歴史的典籍NW事業の進捗状況の説明をしました。



第28回日本資料専門家欧州協会年次大会

- 第19回図書館総合展（平成29年11月7日（火）～9日（木）於 パシフィコ横浜）に国文学研究資料館としてコミュニケーション・ブースに初出展しました。新日本古典籍総合データベースや歴史的典籍NW事業の成果物（オープンデータ等）を紹介し、3日間で約800人がブースを訪れました。



図書館総合展

- 平成29年12月8日（金）に、「歴史的典籍オープンデータワークショップ～切ったり貼ったり、古典籍からなにを取り出そう？～」を、大阪市梅田の大阪市立大学文化交流センターにおいて開催しました（当館主催、国立国会図書館、国立情報学研究所、データサイエンス共同利用基盤施設 他共催）。



歴史的典籍オープンデータワークショップ



- 市民参加型ワークショップ「古典」オーロラハンター3を開催しました。市民から参加希望が多数寄せられました。（平成30年2月18日（日）当館、国立極地研究所、総研大・学融合推進センター主催）。



「古典」オーロラハンター3



- 本事業を紹介するニューズレター「ふみ」を2回（8号、9号）発行しました。ホームページからもPDF版の配信をしています。



URL:[http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter\\_fumi\\_new.html](http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html)

# 事業概要

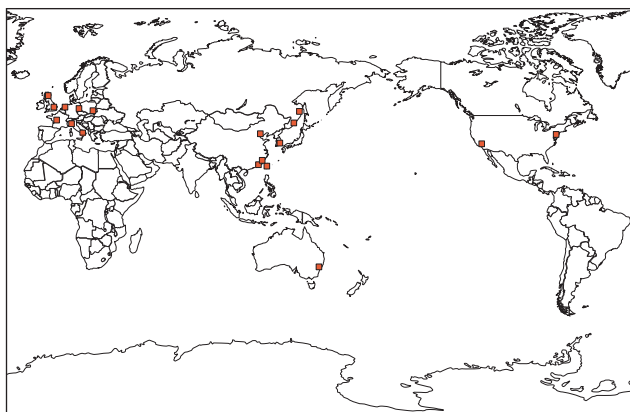
## 事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらを様々な方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

## 1 調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料（写本・版本等）の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

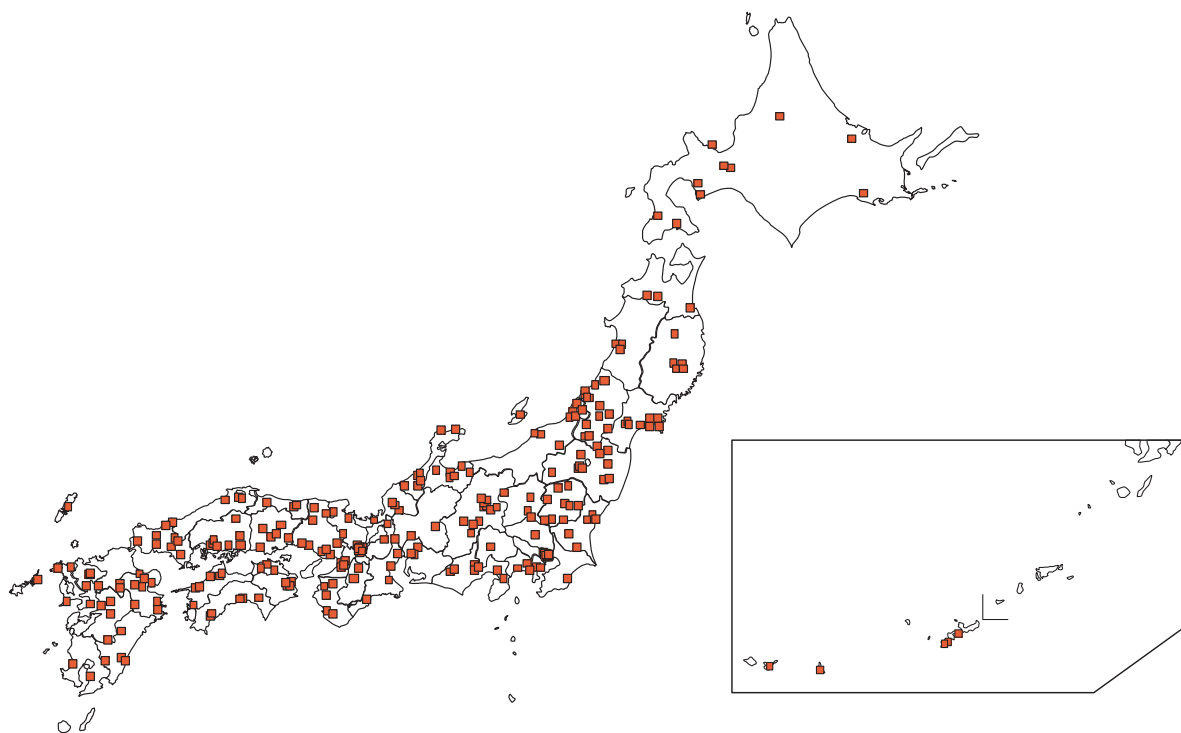
こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,035箇所	418,197点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,102箇所	434,564点
収集	国内	384箇所	208,491点
	海外	13箇所	1,518点
	計	397箇所	210,009点

全国に散在する日本文学及び関連資料の数は、およそ100万点と推計されており、現在その約20%がフィルム、画像、または原本によって当館で読むことが可能になっています。



## ■平成29年度調査箇所一覧

### 北海道・東北地区

米沢市立米沢図書館

### 関東地区

尊経閣文庫

宮内庁書陵部

最明寺

星槎ラボラトリー（眞山青果文庫）

### 中部地区

諏訪市博物館

池田三郎

嵐牛俳諧資料館

金城学院大学図書館

名古屋市博物館

### 近畿地区

瑞光寺

京都女子大学（蘆庵文庫）

中庄新川家

大阪天満宮御文庫

貝塚御坊願泉寺

### 中国・四国地区

鳥取県立博物館（久松閣文庫）

手銭記念館

光市文化センター

総本山善通寺

鎌田共済会郷土博物館

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

高知県立高知城歴史博物館

### 九州・沖縄地区

天草上田家

諏訪神社（諏訪文庫）

### 近代

函館市立中央図書館

弘前市立弘前図書館

酒田市立光丘文庫

会津若松市立会津図書館

山田俊治

星槎ラボラトリー（眞山青果文庫）

静岡大学附属図書館（貸本屋旧蔵コレクション）

大阪大学附属図書館（忍頂寺文庫）

大阪府立大学学術情報センター図書館・近代文庫

長崎県立長崎図書館

## ■平成29年度収集箇所一覧

### 北海道・東北地区

宮城県図書館（伊達文庫）

### 関東地区

宮内庁書陵部

法政大学（鴻山文庫）

### 中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）

富山市立図書館（山田孝雄文庫）

### 近畿地区

京都市歴史資料館

京都女子大学（蘆庵文庫）

陽明文庫

金城学院大学図書館

相愛大学図書館（春曙文庫）

### 中国・四国地区

鳥取県立図書館

山口大学附属図書館（棲息堂文庫）

総本山善通寺

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

愛媛大学図書館（鈴鹿文庫）

高知県立高知城歴史博物館

### 九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社（中川文庫等）

肥前島原松平文庫

松浦史料博物館

杵築市立図書館

### 近代

八戸市立図書館

山梨大学附属図書館（近代文学文庫）

大阪大学附属図書館（忍頂寺文庫）

大阪府立大学学術情報センター図書館（近代文庫）

山田俊治

### アーカイブズ

真田宝物館（真田家文書）

江川文庫

※所蔵者名敬称略



## 2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

### 利用案内

利用時間	開館時間	平日	9：30～18：00（史料・貴重書の閲覧は9：30～17：30）		
		土曜	9：30～17：00（史料・貴重書の閲覧は9：30～16：30）		
	書庫資料 閲覧受付	平日	9：30～12：00、13：00～17：00		
		土曜	9：30～12：00、13：00～16：00		
	複写受付		9：30～16：00		
休 館 日		・日曜日、祝日・振替休日 ・年末年始（12月26日から1月5日） ・保存環境整備期間（5月1日から5月5日） ・蔵書点検期間（2月25日から3月2日） ・第2第4水曜日 ・夏季一斉休業日（8月13日から15日） ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。			
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書（写本・版本）、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物（土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要）			
	複 写	電子複写（リーダープリンターによる複写も含む）・ポジフィルム（ただし史料は除く）			
	撮 影	史料等、電子複写できない資料			
	貸 出	紙焼き写真本の一夜貸しサービス（一部を除く）			
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出			
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答			
	相 互 協 力	図書館間の相互協力（ILL）による文献複写、資料貸出			
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926	情報サービス第1係	
		相互利用（ILL）	050-5533-2926	情報サービス第1係	
		歴史資料について	050-5533-2930	情報サービス第2係	
		資料の掲載について	050-5533-2930	情報サービス第2係	
	F A X	042-526-8607			
E-mail	etsuran@nijl.ac.jp				

## 所蔵資料

資 料 種 別			点 数 等	冊 数 等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	193,768点	42,527リール
		歴史	202件	6,308リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	16,667点	57,358枚
	紙焼写真本	日本文学	—	75,190冊
		歴史	—	11,196冊
図 書	写本・版本		17,867点	59,694冊
	活字本・影印本等		—	187,846冊
	逐次刊行物		9,079誌	—
所 蔵 史 料			493件	約520,000点
寄託資料・寄託史料		日本文学	11件	9,537冊
		歴史	17件	6,847点

## 代表的な所蔵資料

### 日本文学関係資料

#### 【貴重書】

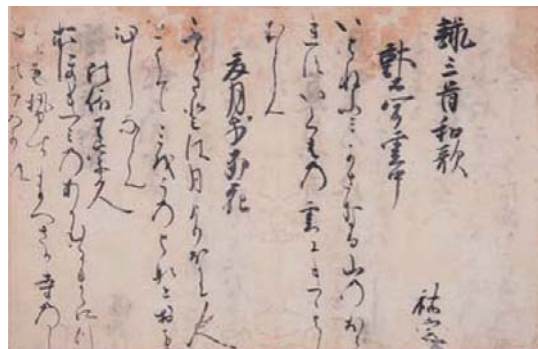
春日懐紙（重要文化財）、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか206点

#### 【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション（初雁文庫）、作家中村真一郎旧蔵の江戸、明治の漢詩文集のコレクション（日本漢詩文集コレクション）、『徒然草』ほかのコレクション（高乗勲文庫）、『新古今和歌集』を中心としたコレクション（懐風弄月文庫）、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類（田安德川家資料（田藩文庫ほか））、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類（鵜飼文庫）、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類（山鹿文庫）、『伊勢物語』とその関連書のコレクション（鉄心斎文庫）ほか23件

#### 【寄託資料】

金子元臣旧蔵書6点、松野陽一氏蔵書104点、坂田穂好氏古筆切コレクション145点、増田コレクション6,690枚50箱ほか11件



春日懐紙（当館所蔵）



書庫

### 歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。

### 3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、様々なイベントを開催しています。

#### ■ 展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

#### 平成30年度展示予定

##### 特別展示

##### 「〈いのり〉と〈すくい〉の中世」

平成30年10月15日から12月15日まで開催予定

外来宗教であった仏教は、古代において王権と結びつき国家宗教として日本に定着し、種々の儀礼をともなって伝承されましたが、中世に入ってから庶民を対象として展開し、多種多

様な信仰形態を生み出すこととなりました。ことに庶民や女人を対象に教義を広めるため、説法唱導という手法を用いての安居院を始発とする教宣活動は宗教文化史の上で特筆すべき事項です。また、唱導の活動はより可視化をして絵画や芸能へも展開し、後の日本文化に大きな影響をあたえています。本展示では日本の中世信仰における唱導の様相とその文芸的展開について、典籍を中心に展示をします。

また、本展示は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の一環として実施します。



展示室

##### 通常展示 「和書のさまざま」

平成30年4月から5月26日及び平成31年1月15日から5月頃まで開催予定

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介しします。全体を通して和書の基本知識を学んでいただくとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

##### 通常展示 「書物で見る 日本古典文学史」

平成30年6月11日から9月15日まで開催予定

上代から明治初期までの文学を、書物（古典籍）によってたどります。最近の研究動向にも配慮をしておりますが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

写本の表情や版本の風合いに触れながら、豊かな日本古典文学史の諸相をお楽しみいただけるようにしております。

##### 特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しております。

#### ■ 講演会等

##### (1) 連続講座

日本文学の普及を図るため、一般の方を対象として、くずし字を読む講座を開催します。

平成30年度は「多摩地域の歴史アーカイブズ（古文書）を読む」講座を5月～7月に全8回行います。



平成29年度 連続講座



## (2)アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月17日（火）～9月7日（金）の間の計6週間、国文学研究資料館で開催し、短期コースは鶴岡市郷土資料館において11月12日（月）～11月17日（土）に開催を予定しています。



平成29年度 アーカイブズ・カレッジ長期コース

## (3)「古典の日」講演会

「古典の日」は、源氏物語千年紀にあたる平成20（2008）年11月1日にちなんで、源氏物語千年紀委員会（後に古典の日推進委員会と改称）が「11月1日は古典の日」と全国に宣言したのをきっかけに法制化が実現しました。当館も記念の講演会を開催しており、平成30年度は11月3日（土・祝）に予定しています。



平成29年度 「古典の日」講演会

## (4)日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

平成30年度は、平成31年1月22日（火）～25日（金）に4日間の開催を予定しています。



平成29年度 日本古典籍講習会

## 主要出版物一覧

### 当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文学研究資料館年報
- 国文研ニュース（季刊広報誌）

### 研究成果

- 国文学研究資料館紀要  
文学研究篇  
アーカイブズ研究篇
- 研究成果報告書
- シンポジウム報告書

### 事業関係

- 調査研究報告
- 史料目録
- 国際日本文学研究集会会議録
- 展示図録



国文研ニュース



紀要 文学研究篇



研究成果報告書 特定研究  
「歴史叙述と文学」



国際日本文学研究集会  
会議録

# ないじえる芸術共創ラボ 文化庁委託事業（戦略的芸術文化創造推進事業）

当館では、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年及び開催後の2021年度を見越した中長期的なプログラムとして「ないじえる芸術共創ラボ」（「ないじえる」とは当館の英語表記NIJLから）を実施しています。具体的には、当館に所蔵されている豊富な古典籍を有効に発掘・活用することにより①古典・明治期文芸翻訳の制作と公刊・電子発信、②古典・明治期文芸現代語訳テキスト（仮称「叢書クラシカルジャパン」）の制作と公刊・電子発信、③アーティスト・イン・レジデンス（AIR）、トランスレーター・イン・レジデンス（TIR）の成果発表を兼ねたイベント・特別展示の開催、及びメディア・WEBを通じた配信等を行っていきます。これらの活動を通じて、古典籍等の文化的資産を現在の社会のニーズに適合した形で積極的に利活用し、国際的に日本文化を発信していきます。

## ●ラボを動かす部門は3つあります。

### Ⅰアーティスト・イン・レジデンス（AIR）

「アーティスト・イン・レジデンス」として、著名な作家である川上弘美氏、劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏、アニメーション作家の山村浩二氏の3名をはじめとしたアーティストを招聘し、当館が所蔵する豊富な古典籍等の文化的資産に直接触れることや国文学、古典籍、アーカイブズの研究者等とのワークショップ等によって、既存の文学の枠組みを越えた創作活動を推進していきます。

### Ⅱトランスレーター・イン・レジデンス（TIR）

「トランスレーター・イン・レジデンス」として、ピーター・マクミラン氏をはじめ、著名な翻訳家を招聘し、古典インタプリタや当館の研究者との協働やワークショップ等を通じて、翻訳すべき古典籍の選定や他言語圏の読者を意識した翻訳、翻訳された作品の海外発信等を実施し、日本文化の国際的発信を積極的に推進していきます。

### Ⅲ古典インタプリタ

日本古典文学の専門的知識を有するとともに渉外能力等にも長けた人材として「古典インタプリタ」を配置し、日本古典文学に関し、イベント・講演会やメディアを通じて、広く社会に普及する活動を行うとともに、大学や研究機関のみならず、民間企業や地方自治体等との連携活動を通じて、幅広い活用を促進していきます。



2017年10月18日に開催した記者発表の様子  
右からロバート キャンベル館長、ピーター・マクミラン氏、山村浩二氏、長塚圭史氏、有澤知世特任助教（古典インタプリタ）（川上弘美氏は欠席）



本事業のロゴ

ロゴには当館所蔵の井原西鶴『好色一代男』版本から抽出した文字を使用しています。

# 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な問題です。このような認識のもとに当館では、国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、海外において研究集会やシンポジウム、セミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

## 1 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所（フランス共和国）
- 高麗大学校グローバル日本研究院（大韓民国）
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科（イタリア共和国）
- ナポリ大学「オリエンターレ」（イタリア共和国）
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究学科（イタリア共和国）
- フィレンツェ大学語学・文学・国際文化学部（イタリア共和国）
- 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）
- ライデン大学人文学部（オランダ王国）
- プリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科（カナダ）
- コロンビア大学東アジア言語文化学部（アメリカ合衆国）
- カリフォルニア大学バークレー校C.V. スター東アジア図書館（アメリカ合衆国）
- ベルリン国立図書館（ドイツ連邦共和国）
- バチカン図書館（バチカン市国）
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科（アメリカ合衆国）
- ハイデルベルク大学日本学科（ドイツ連邦共和国）

## 2 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、また、外国人の若手日本文学研究者の育成をも視野に入れ、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しています。

平成30年度は11月17日（土）～18日（日）に第42回国際日本文学研究集会を開催します。若手の研究者や外国人研究者がより参加しやすくするために、研究発表・ショートセッション発表及びポスターセッション発表の3つのセッションにおいては、テーマを設定しないこととし、英語による発表も可能としています。



第41回国際日本文学研究集会  
(平成29年11月11日～12日)



### 3 海外機関と連携したシンポジウム等

日本文学及び関連領域について、海外の研究者や研究機関と連携し、国際シンポジウム等を開催しています。

#### フォーラム

##### 「東アジアにおける知の往還」第1回—書物と文化—

平成29年10月24日

国文学研究資料館

当館と韓国・高麗大学校グローバル日本研究院との学術交流協定に基づき、企画されたフォーラムです。

今後、当館の学術交流協定先を中心に、このフォーラムを通じてさまざまな海外機関と協働し、広い視野のもとに継続的な研究交流を展開したいと考えています。

### 4 日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

第4回 平成30年 2月 27日 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）

第5回 平成30年 3月 1日 ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館（アメリカ合衆国）



第4回 日本古典籍セミナー



第5回 日本古典籍セミナー

### 5 海外研究者との交流（外国人研究員・外来研究員）

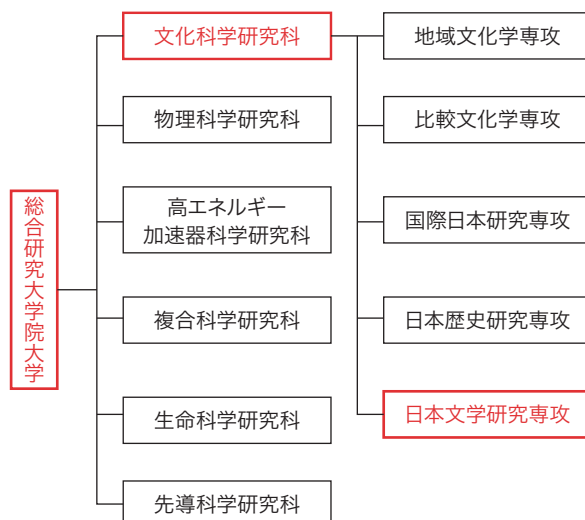
日本文学研究の国際化を促進するために、広く海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺の研究者を外国人研究員（客員教授、客員准教授）として招聘し、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供しています。また、海外の研究者等の要請に応じ、当館を拠点にして学位論文執筆や様々な研究活動を行う方を外来研究員として受け入れています。

# 大学院教育

## ■総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

国文学研究資料館は、総合研究大学院大学（本部は神奈川県葉山町）文化科学研究科日本文学研究専攻の基盤機関となっています。

本専攻は、平成15（2003）年度に設置され（入学定員各学年3名）、博士後期課程（ドクターコース）のみの教育研究を行っています。国文学研究資料館が豊富に所蔵している原典資料を文化情報資源として位置づけ、これを活用して、書物及び作品としての特質や、隣接諸学との関連などを総合的に研究することを通じて、専門研究者を育成することを目的としています。



平成29年度春季学位記授与式

## ■特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、学生の研究指導を行っています。

この目的のため、昭和54年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、平成10年度から特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

大学院に在籍し、日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を受入対象とし、毎年10人程度を受け入れています。受入期間は、原則として1年間です。

（単位：人）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
受入人数	6	5	9	7	2

# 公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館では様々なデータベースを作成しています。

以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館

(<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database>)で公開しています。

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録。
国文学論文目録データベース	明治21年から現在に至る国文学関係論文の目録。
新日本古典籍総合データベース	「歴史的典籍NW事業」により構築している古典籍のデータベース <sup>※1</sup> 。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録。
館蔵和古書目録データベース	当館所蔵の和古書の目録。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	平成23年度科学研究費補助金に基づく広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクションの画像公開。
日本古典資料調査記録データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要及び目録を収録。
ヨーロッパ・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
歴史人物画像データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像を公開 (翻刻付)。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース (地下家伝・芳賀人名辞典)	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人名辞典』と『地下家伝』を搭載。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
日本文学国際共同研究データアーカイブ	科研費基盤研究 (S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報 (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。
館蔵社寺明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆並山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報 (詳細版は利用登録制)。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
近世語彙カードデータベース	歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語 (一部日本語も有) で提供。
嚙本大系本文データベース	『嚙本大系』 (東京堂出版刊) の全文検索。
日本古典文学大系本文データベース	旧版『日本古典文学大系』 (岩波書店刊) の全文検索 (大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。

平成30年4月1日現在

※1 新日本古典籍総合データベースについては、9頁をご覧ください。

※2 学術情報リポジトリについては、こちらをご覧ください。<https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>



# 教員一覧 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

## 館長

氏 名	研 究 内 容
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL	日本文学（近世から明治の文学およびそれに関連する芸術・思想・メディアなど）

## 研究部

氏 名	職 名	研 究 内 容
小 林 健 二 KOBAYASHI Kenji	教授 副館長（企画調整担当）	室町期文芸（能・狂言、幸若舞曲、お伽草子など）の研究
谷 川 恵 一 TANIKAWA Keiichi	教授 副館長（研究担当）	近代文学成立期の研究
大 友 一 雄 OTOMO Kazuo	教授 （研究主幹）	近世日本の記録管理、アーカイブズの歴史
神 作 研 一 KANSAKU Ken-ichi	教授 （研究主幹）	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
齋 藤 真麻理 SAITO Maori	教授 （研究主幹）	中世文学の研究
入 口 敦 志 IRIGUCHI Atsushi	教授	近世文学研究
落 合 博 志 OCHIAI Hiroshi	教授	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
山 下 則 子 YAMASHITA Noriko	教授	近世文学・芸能の研究。特に絵本・浮世絵を対象とし、四世鶴屋南北作歌舞伎の作品研究も行う。
渡 辺 浩 一 WATANABE Koichi	教授	近世都市の社会構造、アーカイブズ史
相 田 満 AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青 木 睦 AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青 田 寿 美 AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
海 野 圭 介 UNNO Keisuke	准教授	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
太 田 尚 宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
加 藤 聖 文 KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
木 越 俊 介 KIGOSHI Shunsuke	准教授	日本近世文学、特に小説史の研究
恋 田 知 子 KOIDA Tomoko	准教授	中世文芸の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	准教授	近世日本における天皇・朝廷・身分研究、民間所在資料の保存・利活用に関する研究
野網 摩利子 NOAMI Mariko	准教授	日本近代文学、夏目漱石研究、日本近代における東西古典の受容
野 本 忠 司 NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究

氏 名			職 名	研 究 内 容
江 戸	英 雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
リーブズ クリストファー		REEVES Kristopher	助教	平安朝の漢詩文及び唐詩との比較研究・漢詩の文体論
有 澤	知 世	ARISAWA Tomoyo	特任助教	日本近世文学、特に江戸戯作の研究
岡 田	貴 憲	OKADA Takanori	特任助教	平安時代物語・日記文学の研究
青 木	賜鶴子	AOKI Shizuko	客員教授	鉄心斎文庫伊勢物語資料に関する書誌的な研究
入 澤	寿 美	IRISAWA Toshiharu	客員教授	行政文書等地域資料情報のネットワーク構築

## ■ 古典籍共同研究事業センター

氏 名			職 名	研 究 内 容
谷 川	恵 一	TANIKAWA Keiichi	センター長 (併任)	近代文学成立期の研究
山 本	和 明	YAMAMOTO Kazuaki	副センター長 特任教授	19世紀文学の研究
北 村	啓 子	KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
岩 橋	清 美	IWAHASHI Kiyomi	特任准教授	近世地域文化史研究、史料管理史研究
井 黒	佳穂子	IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究
岡 田	一 祐	OKADA Kazuhiro	特任助教	近代・近世日本語の研究
松 田	訓 典	MATSUDA Kuninori	特任助教	人文学におけるコンピューター利用に関する研究

# 参考データ

## 職員・予算・施設 (平成30年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m <sup>2</sup> )
館長	1	収入	1,185,721	建物面積 専有面積	13,002
教授	9	運営費交付金	1,179,942	上記の内	
准教授	13	自己収入	5,779	閲覧室	1,584
助教	2	支出	1,185,721	書庫・収蔵庫	2,416
特任教授	1	教育研究経費	737,578	展示室	355
特任准教授	1	一般管理費	448,143		
特任助教	5				
事務系職員	39				
合計	71				

## 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金) (平成30年度)

(単位：円)

研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	直接経費
基盤研究(A)	一般	今西祐一郎	日本古典籍における表記情報学の発展的研究	6,100,000
基盤研究(A)	一般	相田 満	日本における「生き物供養」「何でも供養」の連環的研究基盤の構築	6,400,000
基盤研究(A)	一般	青木 睦	地域社会還元型の公文書活用システム構築に関する学際的研究	9,900,000
基盤研究(A)	海外学術調査	大友 一雄	パチカン図書館所蔵豊後切支丹資料の国際的情報資源化に関する海外学術調査研究	6,300,000
基盤研究(B)	一般	海野 圭介	金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究	3,800,000
基盤研究(B)	一般	小林 健二	語り物を題材とした絵巻・絵本の国際的調査研究	3,700,000
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	自然と人間の相互関係史としての近世都市災害研究	3,000,000
基盤研究(B)	海外学術調査	山下 則子	在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究	2,500,000
基盤研究(C)	一般	神作 研一	近世歌合の総合的調査・研究	700,000
基盤研究(C)	一般	山本 和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する基礎的研究	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	三野 行徳	明治初年武家の北海道移住に関するアーカイブズの復元的研究	1,100,000
基盤研究(C)	一般	恋田 知子	16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の開版の相関性についての研究	1,000,000
基盤研究(C)	一般	木越 俊介	19世紀初頭・長編小説生成期における構成・素材・記述に関する総合的研究	900,000
基盤研究(C)	一般	大高 洋司	後期読本の長編構成に関する複眼的検討	600,000
基盤研究(C)	一般	齋藤真麻理	中近世日本における画題享受史の構築	1,100,000
基盤研究(C)	一般	岩橋 清美	江戸考証家の古器物収集に見る歴史意識の特質とネットワークに関する研究	800,000
基盤研究(C)	一般	ダヴァン ティティエ	禅僧仮名法語の思想的なマッピング	500,000
挑戦的萌芽研究		野本 忠司	文字画像データベースを用いたテキスト化に依存しない汎用毛筆画像検索の研究	700,000
若手研究(B)		上根 英之	風化金石文復元の為の用例辞書及び文字予測データベースの開発	800,000
若手研究(B)		岡田 一祐	平仮名字体データベースと19世紀教科書平仮名字体コーパスの連携による平仮名史研究	900,000
若手研究		滝澤 みか	16世紀における軍記物語と教訓書の関連性	900,000
若手研究		館野 文昭	鶴鷺系歌学書の検討を軸とした秘伝的歌学書・歌学知の生成と展開に関する研究	800,000
若手研究		有澤 知世	考証趣味のネットワークと戯作との関わりを手掛かりとした近世後期文芸の研究	800,000
若手研究		紅林 健志	仮作軍記の総合的研究	300,000
若手研究		黄 昱	説話に見られる日中動物観の比較研究－『太平広記』と『夷堅志』、『夷堅志和解』	400,000
特別研究員奨励費		野村 亞住	季吟門連句の研究	250,000
国際共同研究加速基金		野網摩利子	夏目漱石によるイギリス受容－小説理論の構築の一環として(国際共同研究強化)	0 ※
研究成果学術図書		海野 圭介	和歌を読み解く 和歌を伝える	1,900,000
研究成果学術図書		山本 和明	近世戯作の〈近代〉	1,400,000
研究成果データベース		神作 研一	日本古典籍総合目録	2,000,000
研究成果データベース		山本 和明	所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	6,400,000
研究成果データベース		青田 寿美	明治前期出版広告データベース	2,700,000
研究成果データベース		相田 満	日本文学研究論文の総合目録データベース(大正・昭和・平成)	3,200,000

※平成28年度に研究期間全体(平成28年度～30年度)の研究費(10,300千円)が交付済。

(平成30年4月10日現在)





大学共同利用機関法人

# 人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（略称：人文機構）は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

## 研究推進・情報発信事業

人文機構は、平成28年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。

2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組みます。

### 総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

### 総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
広領域連携型	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
	アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
ネットワーク型	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア
	日本関連在外資料調査研究・活用事業： ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用 ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用

## 4つの大学共同利用機関法人



### 人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



### 総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

### 総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihuINT <a href="https://int.nihu.jp">https://int.nihu.jp</a> 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo">https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo</a> 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース <a href="http://nrd.nihu.jp">http://nrd.nihu.jp</a> 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 <a href="https://guides.nihu.jp/japan_links">https://guides.nihu.jp/japan_links</a> 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine">https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine</a> 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム 第30回 海の向こうの日本文化－その価値と活用を考える－（H29年6月） 第31回 エコヘルス：生き方を考える－環境・健康・長寿－（H30年2月） 第32回 人文知による情報と知の体系化－異分野融合で何をつくるか－（H30年2月）
社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進 ・味の素の文化センターと共催でシンポジウムを開催（平成30年1月） ・大手町アカデミアと連携し、特別講座を開催（平成30年3月）

## 博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

機構の機関と大学等研究機関とが連携し、博物館および展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、多分野協業や学界並びに社会との共創により研究を高度化する研究推進モデル「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化サイクル」を構築し、新領域創出を目指します。

## 歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

機構（主導機関：歴博）、東北大学、神戸大学を中核として、全国各地の主に大学を中心に活動する「史料ネット」との連携構築を通じて、資料調査とデータ記録化、広域的相互支援体制の確立、資料保存研究等の歴史文化資料保全事業を推進します。さらに資料を活用した研究や教育プログラム開発、国内外に向けた情報発信を通じて、地域社会における歴史文化の継承と創成を目指します。

## 人文知コミュニケーター

人間文化研究の成果をわかりやすく社会に伝え、さらに研究に対する社会からの要望、反響を吸上げ研究現場に還元するスキルを有した研究者を人文知コミュニケーターとして育成する事業を実施しています。研究資源や多様な媒体、発信機能を活用し、研究者と社会のコミュニケーションを実現する「つなぐ人」として、人文学の振興に資する人材を組織的に育成するとともに、社会連携、共創による研究の可視化、発展をはかります。

## 社会連携

地域社会や産業界などと連携し、人間文化研究成果の社会還元を推進しています。

平成29年度の連携事業

- ・九州大学等と連携して第30回人文機構シンポジウムを開催
- ・味の素の文化センターと共催、クックパッド株式会社と協力してシンポジウムを開催
- ・大手町アカデミア（YOMIURI ONLINE、中央公論新社）と連携して特別講座を開催
- ・東北大学、神戸大学と合同でメディア懇談会を開催

## 大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学（総研大）の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻（博士後期課程）を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。



人間文化研究機構・東北大学・神戸大学 合同メディア懇談会「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク構築事業」



人文知コミュニケーターによる講演  
（於：日本科学未来館、平成29年12月）



人間文化研究機構・味の素の文化センター共催シンポジウム「江戸の書物から読み解く庶民の食べ物と生活」（於：味の素グループ高輪研修センター）

文化科学研究科の各専攻

- 地域文化学専攻（民博）
- 比較文化学専攻（民博）
- 国際日本研究専攻（日文研）
- 日本歴史研究専攻（歴博）
- 日本文学研究専攻（国文研）



## 交通のご案内

### 多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

### 立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

### 徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

### 自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分

※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



# 国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

FAX: 042-526-8604

<https://www.nijl.ac.jp/>

**National Institute of Japanese Literature (NIJL)**  
**National Institutes for the Humanities**

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan

TEL: +81-50-5533-2900

FAX: +81-42-526-8604